

# 65 安全管理

## 交通規制に係る地元車両への対応と舗装の品質確保

長野県土木施工管理技士会

株式会社倉品組

技術係長

寺嶋 孝雄<sup>○</sup>

土木部長

木村 良紀

### 1. はじめに

#### 工事概要

- (1) 工事名：令和元年度 県単道路占用路面復旧・県単道路橋梁維持（舗装修繕）工事
- (2) 発注者：長野県大町建設事務所
- (3) 工事場所：（一）川口大町線 大町市 大塩
- (4) 工期：令和元年7月11日～  
令和2年2月14日

舗装修繕工 L=401m W=3.4～8.2m

$$A=2,589\text{m}^2$$

本工事は、配水管工事における舗装の本復旧と破損劣化した舗装の修繕工事である。（図-1）

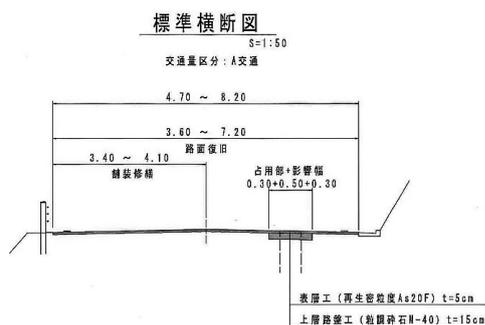


図-1 (標準横断図)

### 2. 現場における問題点

舗装修繕施工を行なう道路幅員はW=3.4mと狭く、通行車両を通しながらの作業は難しいと予想された。地元車両と共に公共バスやごみ収集車、高齢者福祉車両も通行しており、これらに対応す

る交通規制対策が課題となった。また、既設のガードケーブル基礎部が逆勾配のため路面に雨水がとどまりやすい上、山側からの湧水が道路脇の水路で排水できず路面上に流れている箇所があり、冬期には凍結によるスリップ事故の発生が懸念されながら長年補修・修繕が行われてこなかったため、今回の舗装修繕工事に合わせて対策が求められた。以上、①地元車両等の交通規制、②路面上の湧水・溜水処理への対策、の2点を課題とした。

### 3. 工夫・改善点と適用結果

#### ①地元車両等の交通規制

幅員が狭い箇所は作業効率、安全性の観点から原則全面通行止めで作業を行う計画だったが、地区内の高齢者を送迎する福祉車両の運行については利用者の負担も考慮して、例外的に規制時間内でも通行できるようにした。また予め該当住民には通行許可証を配布し（図-2）、交通誘導員が優先車両を判別して現場内作業の一時中断を行い、安全に通行できるよう周知徹底した。



図-2 (地元車両通行証)

公共バスは現場手前のバス停で迂回してもらい、ゴミ収集車については最寄りの規制区域外の収集所で対応してもらった。そのため、ゴミ収集日には規制区域内の収集所に出されたゴミを規制開始前に規制区域外の収集場に運搬移動（図-3）し、住民も収集車も通常通りの収集ができるように配慮した。結果、苦情やトラブルもなく地元住民の方々から当工事への理解も得られ、無事竣工した。



図-3 (ゴミ収集規制区外収集場へ移動)

#### ②路面上の湧水、溜水処理

既設のガードケーブル基礎部が逆勾配のため降雨時に雨水が路面に溜まってしまうので、ガードケーブル基礎部のコンクリートを溝状に削孔して雨水を排水出来る様にした。（図-4）



図-4 (ガードケーブル基礎部排水溝作成)

また、地元住民から山側からの湧水が道路上に流れてきて冬期は凍結してスリップするから改善して欲しいと要望がでていたので、既設水路内に長年溜まった土砂を撤去清掃し、甲蓋ジョイント部に溝を切ってスリットを設け湧水を全て水路へ誘導した。その結果舗設作業も湧水の影響を受けずに行うことができ、舗装の品質確保ができた。

#### 4. おわりに

現場周辺の道路は見通しが悪く道幅も狭い箇所が多いので、地域住民との交通事故防止のためカーブミラー及び道路標識の清掃を行い、現場車

両運転者の安全意識の向上につなげた。また路面清掃と同時に現場内のガードケーブル清掃も行い周辺の環境美化に努めた。地元車両通行証を渡すと共に地元日影地区の方々に対して、工事着手前および施工中に工事のお知らせ、工程表を定期的に配布することによって作業内容・工程・規制時間が分かるように配慮した他、地元からの要望、意見等を聞き工事の進捗に反映させた。（図-5）

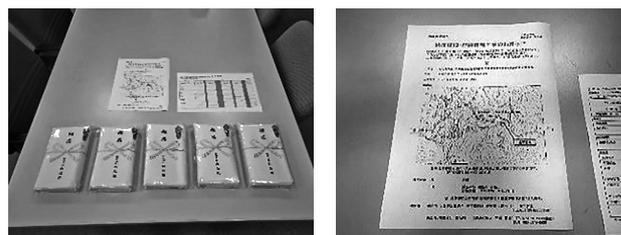


図-5 (地元地区お知らせ文、工程表)

路面上の雨水・湧水処理と同時に、複数あった破損が著しい既設構造物の補修も行い、当舗装復旧工事竣工後も道路構造物として機能するように、また道路を使用する地域住民が使い易い様に配慮した。安全面では、公衆災害防止の観点からNETIS製品を積極的に導入した。高輝度スリム看板は遠くからも見やすいという道路幅員も確保できるので、交通規制区間延長が長い当現場では有効であった。また日没が早まってくると施工時間内でも薄暗くなるので、現場内に照明設備（図-6）を配置し、作業性、安全性の向上に努めた。



図-6 (照明設備使用状況)

今後も現場を施工するにあたり地元からの要望等に誠意ある対応を心掛けて信頼関係を築いて行きたい。